

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5年 3月 31日

事業所名 Canモア～水ケ江

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			規定に基づき行っている。 運動スペース36.42㎡ 学習スペース20㎡ 静養スペース8㎡	
	2	職員の配置数は適切である	○			規定に基づき行っている。 保育士を配置し専門職加配加算を算定している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			○	建物の構造上入口に段差や2階に上がる為の階段がある。フロア内はバリアフリーである。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			月1回Canモア～全事業所で会議を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			例年家族会を開催していたが、コロナの影響で開催できなかった。アンケートや面談を行い出た意見等を活かし業務改善を行っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			HPで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	第三者による外部評価は行っていない。現在、外部評価の検討を行っている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			外部研修や内部研修で知識の向上を行っている。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			児童と保護者に聞き取りを行い、事業所内で支援会議をした上で個別計画の作成を行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			標準化されたアセスメント表を使用し状況の把握を行っている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			関係職員で支援会議を行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			固定化しないようにスタッフで話し合い会議にかけ立案している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			日々季節に合わせた行事を設定し休日の際はイベント活動を行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			子どもの支援の必要性に応じ、個別活動と集団活動を行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			毎日支援開始前にミーティングを行い、情報共有や役割の確認を行っている。	

関係機関や保護者との連携	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			支援終了後に振り返りを行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			個別計画に従いサービス提供記録に記録を行っており、毎回保護者にサインを貰っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的に定められた期間内に個別計画の見直しを行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			放課後等デイサービス計画に基づいて基本活動を組み合わせ支援を行っている。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			サービス担当者会議には児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			随時、学校を交えての支援会議を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在医療的ケアを必要とする児童はいないが、受け入れの際には体制の整備を検討する。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			支援会議を行い、情報の引き継ぎを行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		現在障害福祉サービス事業所へ移行となったケースは無いが必要な場合は情報の提供や支援会議を行う。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			子ども発達医療センター等から児童に必要な情報や助言をもらっている。随時支援会議を行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		障害のない子ども達との交流はない。	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			毎月行われている放デイ連絡会に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時やサービス提供記録等で日々の様子を報告している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			支援の方法など対応の仕方をお話している。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時、家族に説明を行っている。		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			随時保護者からの相談に対応し、助言を行っている。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			家族会で保護者同士の会話の場を設定している。今年度は開催できていない	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				苦情受付窓口を設置し苦情解決を行っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				毎月お便りを発行している。ホームページやFacebook、Instagramにて情報の発信をしている。	
	35	個人情報に十分注意している	○				個人情報には鍵付きのロッカーで保管している。個人情報の取り扱いの同意をとっている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				分かりやすく説明を行っている。	
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			地域住民と関わる事は少ない。	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○				家族会等で説明し、随時マニュアルの見直しを行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				年2回の避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				研修会に参加し事業所内で伝達している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				同意書を作成し、保護者に説明を行った上で同意を得ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				保護者からの聞き取りを行い対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				事故報告に基づいて事例検討している。	